

道高教組結成 70 周年の年に

私たち道高教組は第121回定期大会を開催し、職場・学校にゆとりがなく、息苦しくなっている実態を明らかにしつつも、それを打開して、子ども・青年のいのちと人権が何よりも大切にされる学校と社会でありたい、教職員の自由と権利が保障され、やりがいをもって子どもたちと向き合い、憲法を活かし平和のうちに生存している実感を分かち合いたい等、これらの願いを支え合うために、みんなで力を合わせたいとの思いに貫かれた大会討論を行い、運動方針を決定しました。道高教組がたたかいのなかで創り上げた不滅のスローガン「職場に自由を、教室に真実を」が指し示す教師・教育論を情勢に応じて捉え直し、発展させることが大切であると確認されました。

昨年9月の北海道胆振東部地震による大停電のなか、児童・生徒の安否確認や休校連絡、寄宿舎生の安全確保や保護者との連絡調整、医療的ケアを必要とする児童・生徒への対応など、私たち教職員は非常時対応に奔走しました。いま、学校と子どもたちのことを絶えず考え、働き続ける私たち教職員は長時間過密労働に苛まれています。1年単位の変形労働時間制の導入で、実態を隠蔽するのではなく、教職員定数を抜本的に増やし、優先すべき仕事は何であるかを、それぞれの職場のなかで合意を積み重ねながら確認していくことが求められます。

「上が決めることだから仕方ない」という言葉を職場で耳にすることがありますが、いまその「上」そのものが腐敗し、安倍政権は破綻が露わになっています。安倍首相は口先では「真摯に受け止める」と発言しながら、沖縄の県民投票で示された声に背を向け、毎月勤労統計の不正では、昨年のモリカケ問題に続いてウソとごまかし、強権的国会運営を示しました。これらが安倍政権の「強さ」からではなく「焦り」の表れであることを見定め、安倍政権を退陣に追い込み、改憲を断念させる年にしようではありませんか。

1か月後に迫った北海道知事選挙では4期16年にわたって私たち道職員と道民を苦しめ、中央政府いいなりの道政を続けてきた高橋道政の継続を許さないために、時代にふさわしく市民と野党の統一候補である石川ともひろさんを支持することを、私たちは大会の意思として決定しました。道民目線に立った知事の誕生で道政の刷新を実現させ、その勢いをひきつづく参議院選挙へとつなげましょう。改憲・消費税増税阻止、立憲主義を守るために、市民と野党の共同・共闘をいっそう広げて、国政の転換をはかりましょう。

北海道高等学校教職員組合は今年70周年を迎えます。その歩みは、激しい社会の動きと自分の生活や仕事を重ね合いながら、「どう生きるか」と問い続けてきた歴史です。ベテランの組合員は自分たちの経験やたたかいを必死に伝えようとしています。若い組合員たちは自分たちの言葉で、平和の意味や自分たちがめざす教育について語り始めています。慌ただしい日常ですが、確実に新しい風が吹き始めています。その風を感じとるためにも、いったん立ち止まり、学校と子どものために何ができるのか、今一度語り合いませんか。多くの同僚に組合加入を呼びかけ、知恵を寄せ合い、新しいうねりを生み出していけるよう、奮闘しようではありませんか。ともに頑張りましょう。

2019年3月3日